

## 薬学実習 3（症例解析学実習）

責任者・コーディネーター	臨床医化学分野 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床医化学分野		
対象学年	4	区分・時間数	実習 15 時間
期 間	前期		

### ・学修方針（講義概要等）

症例解析学実習では、医療薬学および症例・処方解析学に関連する講義で得た種々の疾患の病態と薬物治療に関する基本知識に基づき、指定された症例について情報を集めてグループ討議する。本実習では、「症例解析学実習」と「フィジカルアセスメント実習」の連携を図りながら、実務基礎実習と連動して系統的に行う。そのため、全日程の出席と各分野の担当する実習全てに合格することを原則とする。

### ・教育成果（アウトカム）

医療薬学、薬理学等の講義を通して習得した種々の疾患の病態、薬物治療に関する知識に基づき、指定された症例について必要な情報を収集し、適切な疾患名、治療法を考えることができる。この過程を通じて、適切な薬物治療法を考案できる能力が身につく。（ディプロマ・ポリシー：2, 4, 7, 8）

### ・到達目標（SBO）

1. 代表的な疾患における薬剤治療と非薬剤治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。(589)
2. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(590)
3. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬剤治療法を考案することができる。(1005)
4. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。(580)  
 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸痛、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害
5. 代表的な臨床検査やフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。(588)
6. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(590)
7. 提示された症例における症候、病態、検査所見などから診断名を考えることができる。（☆）

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
5/29	月	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	<p>実習ガイダンス 練習課題について、症例シナリオの呈示(☆) 症状、検査結果などから考えられる疾患について討議する。(☆) 疾患に対する適切な治療法について討議する。(☆)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な疾患における薬剤治療と非薬剤治療(外科手術、食事療法など)の位置づけを説明できる。</li> <li>2. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。</li> <li>3. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬剤治療法を考案することができる。</li> <li>4. 種々の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。</li> <li>5. 代表的な臨床検査やフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</li> <li>6. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。</li> <li>7. 提示された症例における症候、病態、検査所見などから診断名を考えることができる。</li> </ol> <p>【PBL】【グループワーク】【プレゼンテーション】 事前学修：予定されている実習内容を確認しておくこと。 事後学修：プレゼンテーションを参考にして、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめる。</p>
5/30	火	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	<p>症例シナリオの呈示(☆) 症状、検査結果などから考えられる疾患について討議し、プレゼンテーションする。(☆)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 種々の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。</li> <li>2. 代表的な臨床検査やフィジカルアセ</li> </ol>

					<p>メントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>3. 提示された症例における症候、病態、検査所見などから診断名を考えることができる。</p> <p>【PBL】【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：予定されている実習内容を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：プレゼンテーションを参考にして、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめておく。</p>
5/31	水	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	<p>疾患に対する適切な治療法について討議し、プレゼンテーションする。</p> <p>(☆)</p> <p>1. 代表的な疾患における薬剤治療と非薬剤治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。</p> <p>2. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。</p> <p>3. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬剤治療法を考案することができる。</p> <p>4. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。</p> <p>【PBL】【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：予定されている実習内容を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：プレゼンテーションを参考にして、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめておく。</p>
6/1	木	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	<p>症例シナリオの呈示 (☆)</p> <p>症状、検査結果などから考えられる疾患について討議し、プレゼンテーションする。(☆)</p> <p>1. 種々の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。</p> <p>2. 代表的な臨床検査やフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。</p> <p>3. 提示された症例における症候、病態、検査所見などから診断名を考える</p>

					<p>ことができる。</p> <p>【PBL】【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：予定されている実習内容を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：プレゼンテーションを参考にして、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめておく。</p>
6/2	金	3・4	臨床医化学分野 臨床医化学分野	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授	<p>疾患に対する適切な治療法について討議し、プレゼンテーションする。</p> <p>(☆)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 代表的な疾患における薬剤治療と非薬剤治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。</li> <li>2. 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。</li> <li>3. 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬剤治療法を考案することができる。</li> <li>4. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。</li> </ol> <p>【PBL】【グループワーク】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：予定されている実習内容を確認しておくこと。</p> <p>事後学修：プレゼンテーションを参考にして、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめておく。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬がみえる vol.1 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2021
教	薬がみえる vol.2	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2015
教	薬がみえる vol.3	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2016
参	薬物治療学 改訂11版	吉尾 隆 他 編	南山堂	2022
参	治療薬マニュアル 2023	北原 光夫、上野 文昭、 越前宏俊 編	医学書院	2023
参	今日の治療指針 2023	福井 次矢、高木 誠、 小室一成 編	医学書院	2023

・ 成績評価方法

実習への取り組み方（15%）、プレゼンテーション（15%）、実習レポート（70%）から総合的に評価する。

・ 特記事項・その他

本実習では、3回プレゼンテーションを実施する。プレゼンテーションの内容についてその都度教員がコメントすることで、フィードバックを行う。

予習・復習のポイント：予定されている実習内容は、予め確認しておくこと。復習としては、他の班の症例も含め、症例解析の結果について整理し、まとめておくこと。

実習に対する事前学修には20分を、事後学修には40分を要する。更に、レポートの作成に6時間程度の時間を確保する必要がある。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	iPad Air	1	実習資料の閲覧